

【事業概要】

○浦佐バイパスは、国道17号の「幹線道路ネットワークの強化」「浸水・濃霧区間の回避」「冬期除雪障害の解消」などを目的とし、国道17号の新潟県南魚沼市市野江甲～新潟県魚沼市虫野に至る延長6.6kmのバイパス整備事業です。

区 間： (起)新潟県南魚沼市市野江甲 (終)新潟県魚沼市虫野

延 長： 6.6km (今回開通区間 1.0km)

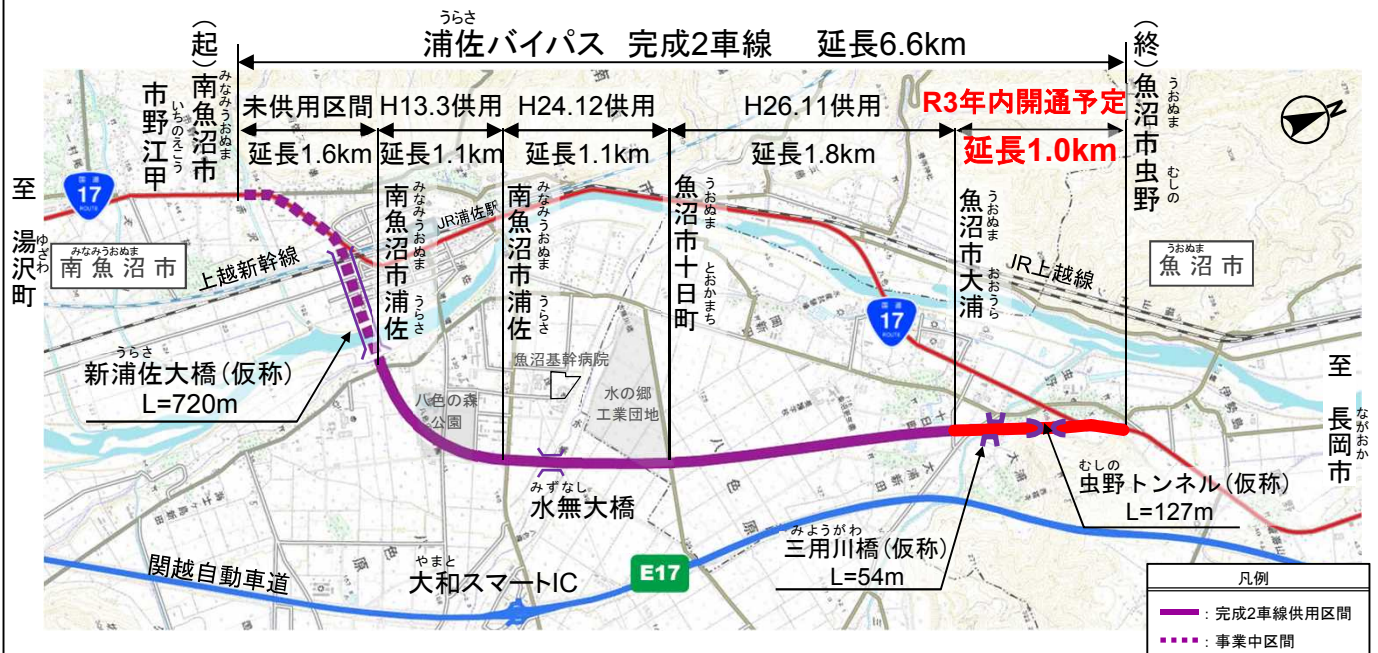
事業経緯： S63年度 事業化

H 9年度 工事着手

H12年度 南魚沼市浦佐地先 供用 (延長1.1km)

H24年度 南魚沼市浦佐地先
～魚沼市十日町地先 供用 (延長1.1km)

H26年度 魚沼市十日町地先 供用 (延長1.8km)



【整備効果】

- ①魚沼基幹病院 (三次救急医療) までのアクセス性が向上し、安全安心な搬送が可能となります。
- ②魚沼市・南魚沼市の産業集積を支援するとともに、進出企業の生産性向上、地域産業の活性化に貢献します。
- ③雪を堆雪する十分な路肩が確保されることで、冬期間における円滑な交通確保が期待され、安全性・信頼性が向上します。

国道17号 浦佐バイパス(大浦から虫野地区)開通による主な効果

【魚沼地域の救急医療活動を支援】

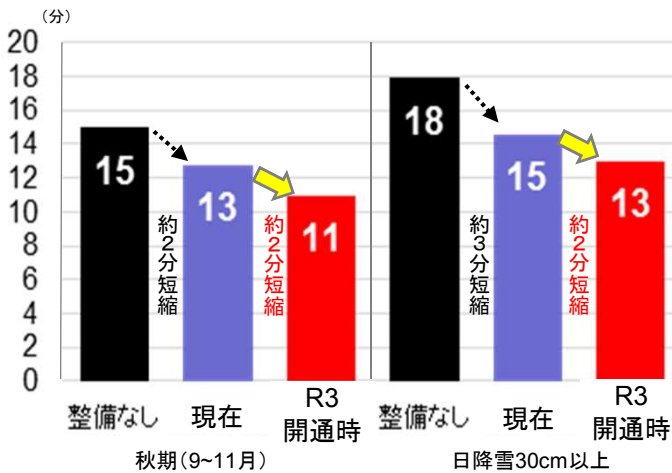
- ▶ 大浦～虫野区間が開通することにより拠点的な医療を担う「魚沼基幹病院」までのアクセスが向上し、安全安心な搬送が可能となる。

【地域の産業集積支援と生産性向上】

- ▶ 浦佐バイパス沿線の「水の郷工業団地」には、近年、食品関係企業が進出している。
- ▶ 大浦～虫野間の整備により、水の郷工業団地へのアクセスが向上し生産性向上、地域産業の活性化に貢献。

【魚沼基幹病院への所要時間短縮】

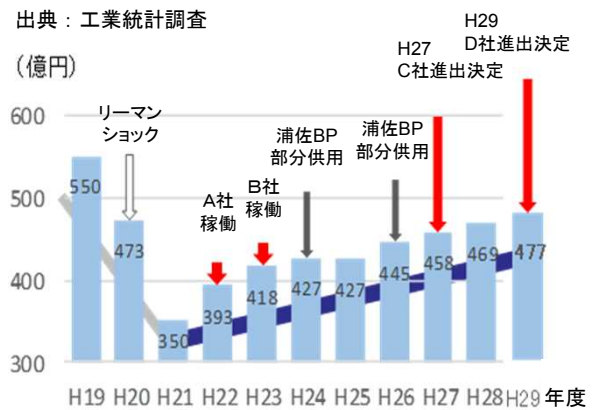
終点側の開通で魚沼市街地から魚沼基幹病院への所用時間が短縮



出典：整備なし、部分供用(プローブデータ(H27年度))
全線供用(H24将来交通量推計値)

【魚沼市の製造品出荷額等の推移】

製造品出荷額は増加傾向であり水の郷工業団地への企業進出が進んでいる



A社：テーブルマーク(株) B社：ホリカフーズ株式会社
C社：株式会社ブルボン D社：魚沼醸造株式会社

【部分開通による魚沼基幹病院や水の郷工業団地へのアクセス向上】

